

平成24年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 S 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の変化	費用対便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要
							総事業費	進捗率	事業進捗内容						
							うち工事費	進捗率							
							うち用地費	進捗率							
海岸事業 (海岸高潮対策事業)	1	的矢港海岸	志摩市	③	【全体事業概要】 [的矢地区] 護岸(補強):1,373m 陸閘(改良):7基 【目的】 当海岸の海岸保全施設は伊勢湾台風後の築造から50年程度が経過し老朽化が著しく、背後地の住民から一刻も早い施設整備が望まれているところです。 当該事業は、この護岸の補強を行うことにより、波浪や高潮等による災害を防除し、護岸背後の生命と財産を守ることを目的としています。	S61	5,060	71.3%	【整備済み内容】 [的矢地区] 護岸(補強):1,002m 陸閘(改良):7基 【社会的状況の変化】 的矢港海岸の地形条件として、海と山に挟まれた限りある平地に家屋などが密集し、住民にとって護岸は生命線であることから、護岸の老朽化に対して危機感を抱いています。 また、近年の異常気象に伴う台風の大型化などが懸念されています。 さらに、住民の危機管理意識が向上しており、護岸補強の早期完了を望む声は、一層高まっています。	【費用対効果分析】 B/C=3.29 【コスト削減】 複雑なりアス式海岸であるという地形条件に配慮し、詳細な土質調査を実施し、その調査結果を踏まえて、設計工区を細分化し、工区別に比較検討を行い、より経済的な断面を採用するなど、設計時において可能な限りコストの削減に取り組んでいます。 【代替案】 当地区では、護岸の前面海域に養殖筏が係留されていることから、高潮対策施設として沖合に離岸堤や人工リーフなどを設置できません。また、堤防は広い堤体盛土の設置スペースが必要となるため、海岸施設と人家が隣接している当地区でのスペース確保は困難です。 このため、当地区における高潮対策施設は護岸以外には考えられず、現計画で整備を進めることが妥当であると判断しています。	【今後の見通し】 今後の整備区間は作業環境が厳しく、財政状況についても厳しい状況が予想されますが、引き続き事業の進捗を図り平成33年度の完成を目指します。	第1回委員会では、総合防災の観点からの説明を求めた。今回、それをふまえて再審議を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。	施工区間が狭隘となることから、事業の進捗に影響があるという課題があります。 関係者との調整により、事業効果の早期発現を図ります。		
						S	5,060	71.3%							
						H33	-	-							

平成24年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 S 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の変化	費用対便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要
							総事業費	進捗率	事業進捗内容						
							うち工事費	進捗率							
							うち用地費	進捗率							
河川事業 (総合流域防災事業)	2	二級河川 檜山路川	志摩市	③	【全体事業概要】 計画延長 L=990m 築堤工 L=1,550m 掘削工 V=20,000m ³ 護岸工 L=1,450m 橋梁工 4橋 用地買収 1式 【事業目的】 檜山路川沿いの浸水被害防止を目的に、河川の拡幅と嵩上げ等の改修により流下能力を確保し、治水安全度の向上を図ります。	H6	1,500	84.8%	【整備済み内容】 ・築堤工 L=1,430m ・掘削工 V=18,500m ³ ・護岸工 L=1,140m ・橋梁工 4橋 ・用地買収 1式 【次年度以降の内容】 ・築堤工 L=120m ・掘削工 V=1,500m ³ ・護岸工 L=310m	【周辺環境の変化】 流域の人口は減少傾向。被災を経験した地元住民の協力により、現在まで順調に事業が進捗している状況にあります 【経済的变化】 公共事業予算削減により事業費の確保が厳しくなっています	【費用対効果分析】 B/C = 1.98 地元との調整によって既設橋梁を統合し架け替えることにより事業費の削減に努めました 【代替案】 代替案は現実的側面からありません	【今後の見通し】 厳しい財政状況であるものの、引き続き事業の進捗を図り、平成29年度の完成を目指します 事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。	継続	事業効果の早期発現が課題であると考えています。 県内の河川整備箇所の選択と集中等、整備の重点化を進め、事業の早期完成を目指します。	
						S	1,251	81.8%							
						H29	249	100.0%							

平成24年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 S 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の変化	費用対便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要
							総事業費	進捗率	事業進捗内容						
							うち工事費	進捗率							
							うち用地費	進捗率							
道路事業	3	主要地方道 神戸長沢線	鈴鹿市	②	【全体事業概要】 延長 1,100m 幅員 13.0(25.0)m 【事業目的】 神戸長沢線の渋滞を緩和し、鈴鹿市街地から東名阪自動車道鈴鹿ICへのアクセス性の向上を図る。また整備により、地域経済や産業の発展、緊急輸送機能の向上が期待される。	H15	2,335	80%	用地取得は概ね完了 平成18年に新名神高速道路の亀山JCT～大津JCT間が開通し、今後、平成27年度に四日市JCT～四日市北JCT間、平成30年度内には四日市北JCT～亀山西JCT間が開通する予定となっている。また都市計画道路汲川原橋徳田線は、これまでに一部区間が4車線化され、平成33年までには、全線4車線化される予定となっており、鈴鹿中央線と一体となることで、4車線で鈴鹿市街地を環状し、鈴鹿ICへ至る道路となる。	【費用対便益分析】 B/C=2.5 【コスト削減】 盛土の法面に防草対策を行い、維持管理費の削減を図っている 【代替案の検討】 平成元年に都市計画決定されており、必要な用地買収を概ね終えていることから、代替案はない	平成26年度の全線供用を目指し事業を推進する。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 ただし、鈴鹿都市計画における本事業の位置づけの説明が不明確であった。今後、同種の事業では説明を工夫されたい。また、都市計画を考慮し、事業効果の発現のため、早期の事業完成に努められたい。	継続	・今回の再評価対象事業は、交通渋滞や道幅が狭く線形も悪いなどの通行上の支障を解消し、安全で円滑な通行の確保をしようとするものであることから、早期に整備が必要です。 ・事業評価時の説明においては、都市計画上の位置づけを明確にする必要があります。 ・今後の事業執行については、引き続き市町や地元関係機関との連携を図り、早期完成に向けて計画的で効率的な事業執行に努めます。 ・事業評価時の説明においては、都市計画上の位置づけが明確になる様工夫した説明に努めます。	
						S	722	38%							
						H26	1,613	99%							

平成24年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の変化	費用対便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要
							総事業費	進捗率	事業進捗内容						
							うち工事費	進捗率							
							うち用地費	進捗率							
道路事業	4	一般国道477号 四日市湯の山道路	四日市市 菟野町	④	【全体事業概要】 延長 9,000m 幅員 22.0(36.0)m 主要構造物 東名阪アンダー工 橋梁工 3橋 【事業目的】 南北に走る高速交通を補完し、四日市市街地や東名阪自動車道と新名神高速道路菟野ICの連絡を強化、現道の渋滞の緩和を図る	H9	42,500	65%	整備済延長 L=1,600m うち供用済延長 L=220m 主要構造物(整備済) 東名阪アンダー工 橋梁工 1橋	平成30年度の新名神高速道路の全線供用予定や現道の渋滞状況から当事業の必要性に変化はない。 【費用対便益分析】 B/C=1.4 【コスト削減】 高角インター橋、吉沢橋において、耐候性鋼材を使用し、維持管理費の削減に努めている。 【代替案の検討】 事業の進捗状況や周辺の地形・土地利用状況から代替案はない。	平成25年度の高角インターチェンジから県道四日市菟野大安線までの供用を目指す。 また、平成30年度の名神高速道路の供用にあわせて全線供用を目指す。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。	・今回の再評価対象事業は、交通渋滞や道幅が狭く線形も悪いなどの通行上の支障を解消し、安全で円滑な通行の確保をしようとするものであることから、早期に整備が必要です。 ・事業評価時の説明においては、都市計画上の位置づけを明確にする必要があります。 ・今後の事業執行については、引き続き市町や地元関係機関との連携を図り、早期完成に向けて計画的で効率的な事業執行に努めます。 ・事業評価時の説明においては、都市計画上の位置づけが明確になる様工夫した説明に努めます。		
						5	24,725	56%							
						H30	17,775	76%							

平成24年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 S 目標年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の変化	費用対便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要
							総事業費	進捗率	事業進捗内容						
							うち工事費	進捗率							
							うち用地費	進捗率							
森林整備事業(林道事業)	6	西出菅合線	大台町・大紀町	③	<p>【全体事業概要】 利用区域面積 1,022ha 幅員 4.0m 延長 13,462m</p> <p>【事業目的】 地域の路網形成の骨格となる林道として、作業道等と一体的な路網を形成し、林業生産活動の活性化による森林資源の有効利用、森林施業の促進による公益的機能の維持増進を図ります。</p>	H9	2,530	69.0%	<p>H9大台町地内から着手開設延長 9,581m (進捗率71.0%)</p> <p>大台町では、平成24年度に第1次大台町総合計画後期基本計画を樹立し、「木材生産推進のための基盤整備」、「素材生産、加工、販売まで木材の一体的流通体制の構築」、「木材利用の普及啓発」、「特用林産物の生産など複合経営の検討」、「林業経営に対する社会的意識の高揚」、「森林立地評価を導入した森林経営の推進」を施策とし、森林、林業振興に取り組んでいます。</p>	<p>【費用便益分析結果】 B/C=35.3億円/32.2億円=1.09</p> <p>【コスト削減】 地形にあった波形線形の採用や、コンクリート擁壁工に替えて補強土壁工を積極的に活用し土工量の低減及び、路肩の縮減等によりコスト削減を図ります。</p> <p>【代替案の可能性】 当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はありません。</p>	<p>コスト削減と環境配慮に努めながら早期完成を目指し事業継続します。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。</p>	継続	<p>持続的な林業経営を確立し林業を活性化するためには、骨格となる林道やその支線となる作業道・作業路により形成する林内路網を充実することによって林業生産性を向上するとともに、林業生産活動を担う林業経営体や林業従事者などの育成を推進する必要があります。</p> <p>国では、「木材自給率50%」を目指す森林・林業再生プランに基づき、その具体的な推進策として、森林の団地化・施業の集約化や路網整備の推進などの取り組みを進めています。</p> <p>本県においては、これまでも林業を活性化するために、森林の育成から木材の利活用まで幅広い取り組みや支援を行っていますが、森林の団地化・施業の集約化を推進する上でも基盤となる林内路網を形成するために、林道事業や森林整備加速化・林業再生基金事業などを活用して、県営により骨格となる林道を整備するとともに、市町や林業事業者等による中小規模的林道や作業道などの整備への支援を行います。</p> <p>また、林業の担い手の育成については、子ども達が森林・木材にふれあい学ぶ機会の提供、高校生を対象とした林業の職場体験学習の開催及び指導者育成研修、農林水産支援センターが実施する技能研修への支援や就業フェアへの協力などにより、後継者や中核となる林業事業者等の育成を更に推進します。</p>	
						S	2,530	69.0%							
						H32	-	-							